

WCRP/Religions for Peace



Contents:

こころの扉——「WCRPを支えさせていただき誇り」 田中常隆	2
第51回理事会	3
平和大学講座	4～5
「いのちに関する学習会」	6
ミャンマーにおける地雷被害急増に対する緊急声明を採択	7
「国際女性デー2025声明」に賛同	7
新役員紹介	8
平和首長会議へ支援金を贈呈	8





「WCRP を支えさせていただく誇り」

WCRP 国際トラステイの故酒井教雄さんの呼びかけに応じて、2006年の第8回WCRP世界大会に合わせて、私達20名の有志の企業経営者が京都に集まり、WCRP 国際トラステイズ日本グループを結成しました。今日まで国際委員会の運営の経費を支援させて頂いています。更に最近では、アジアの諸国への支援としてACRPのプロジェクトを支援することを始めました。私達は同時に日本委員会の賛助会員として日本委員会の

W C R P 国 際
ト ラ ス テ イ ー
日 本 グ ル ー プ 代 表

田中常隆



一員にもならさせて頂いています。

現在、会費を負担する約130名の仲間と、会費は負担しないがアジアの諸国のプロジェクト支援の資金を集めるフェローと呼ぶ7つのグループがあります。

私達はトラステイズとしてWCRP活動の財的支援をさせて頂くことを主な役割としていますが、毎年3回の学習会を開催してWCRPを創設された先達の心を繰り返し学ぶことを独自の活動にしています。世界の平和

を阻害する課題に挑戦する会議、学習会などは国際委員会や日本委員会の指導者の先生方の見識を学習することを基本的な立場と考えています。

私事で恐縮ですが、私は創業73年になる企業を営んでいます。父の跡を継いで社長に就任してから40年になります。WCRPジャパニーズトラステイズの活動を通して多くの宗教者、学者、政治家の方々との出会いを頂き、平和の精神の大切さを学ばせていただきました。事業者として、信仰者として「人を大切にする経営」に取り組みべきことを痛感し、わが社の経営理念を策定致しました。

「いつも元気で明るくあたたかい心を持ち、今のうちあることに感謝して、常に喜ばれる商品を世の中に送り出すことを目標に事業にはげむこと」です。あるべき人間像と、仕事を通して社会に貢献する会社であることを目指す願いを込めました。

会社は、社員、社員のご家族、お客様、仕入先様等、全てのつながる人々の生活を守る為に幾多の課題を乗り越えながらも持続・成長することが必要です。経済の先行きは日々変化していますが、「屋久島の杉のように毎年毎年一つずつ着実に年輪を重ねていくような経営」(塚越寛氏の言葉)を目指していきたいと思っています。

そして、ジャパニーズトラステイズでの学び合いを続けながら、世界の平和に向けて、WCRP 国際支援のために献身的に協力してくださる仲間とともに、一歩一歩これからも努力を重ねてまいります。合掌

第51回理事会

第51回理事会が3月14日、北野天満宮文道会館（京都府京都市）でオンラインを併用して開催された。理事21人が出席し、「日本委員会人事」「第50回理事会・第29回評議員会を受けての対応」「クーリアWCRP/RfP国際事務総長からの提案事項」「チャールズ・ボー枢機卿来日報告並びにミャンマーにおける地雷被害急増に対する緊急声明」「第3回東京平和円卓会議」「国際女性デー2025声明」の賛同について」「評議員会開催」を審議し、すべて可決された。

理事会の冒頭、受け入れ教団を代表して北野天満宮宮司の橋重十九理事が挨拶した。



北野天満宮文道会館

神社神道は実践綱領の中で「自然や世界との共存・共栄」と謳っており、日本民族が縄文の昔から自然界に靈性を認め、自然界と共に生きてきたと説明。また、菅原道真公の「心だに誠の道にかなひなば祈らずとも神や守らん」という御歌を引用し、「誠の心というのは自

然に鎮まる神々の心であり、そこから感謝の心や思いやりの心、共に生きる心になる」と述べた。

その後、戸松義晴理事長の進行で議事が進められた。「第50回理事会・第29回評議員会を受けての対応」では、基本財産運用の在り方について審議を行い、今後、WCRP日本委員



理事会の様子

会のみならず、R P日本委員会からさまざまな意見をもらい、6月の理事会に検討資料を提出することとなった。ミャンマー支援に関しては、第3

回東京平和円卓会議の重要な和解の取り組みとして、ミャンマーの問題に焦点をあてた行動計画を策定し、円卓会議の財源の中から事業費用を捻出することが可決された。

「クーリアWCRP/RfP国際事務総長からの提案事項」では、第11回世界大会の候補地や、開催時期について確認された。

WCRP国際委員会は、国連文明の同盟（UNAOC）との共催で11月頃に長崎でイベントを行うことを検討しており、WCRP日本委員会への協力要請に込めることが可決された。また、2月5日に明治神宮フォレストテラスで開催された「ミャンマーの

平和構築に向けた諸宗教と国連／諸団体による円卓会議」での議論を受けて、「ミャンマーにおける地雷被害急増に対する緊急声明」を发出することが可決され、この問題の緊急的な解決を国際社会に広く呼びかけることが確認された（7ページ参照）。

「第3回東京平和円卓会議」では、過去2回の平和円卓会議の内容を踏まえ、7月1日～3日に東京で開催することが可決された。今回の円卓会議では、ウクライナ、ロシア、パレスチナ、イスラエル、ミャンマーの宗教者を招聘し、開催される予定。また、ソロプチミスト・インターナショナルおよび国連諮問関係NGO会議（CONGO）が中心となって、3月8日に発出した「国際女性デー2025声明」にWCRP日本委員会として賛同することが可決された（7ページ参照）。

●日本委員会人事で選任された役員は次の通り（敬称略）。

タスクフォース（理事会で選任）

気候危機タスクフォース

退任・高地敬（日本聖公会京都教区主教）

運営委員就任・國富敬二（立正佼成会徳島教会）

特別会員（理事会で推薦、評議員会で選任）

退任・高地敬（日本聖公会京都教区主教）

青年部会（任期・2年。青年幹事会で推薦、理事会で選任）

退任・館野庸子（解脱会教務部健康指導係）

退任・館野庸子（解脱会教務部健康指導係）

（係）

平和大学講座

『食卓から地球の平和と人類の共存を考える』をテーマに、平和大学講座が3月14日、北野天満宮（京都市）でオンラインを併用して開催され、約70人が参加・視聴した。

今回は、人間にとって必要不可欠でありかつ身近な食事ということを通して、人間の回復を考えることを目的に、学者・宗教者・専門家が意見を述べた。

戸松義晴理事長（浄土宗総合研究所副所長・浄土宗心光寺住職）の開会あいさつのもと、平和研究所の齋藤忠夫所員（東北大学名誉教授）が『世界の食の平和と人類の共存』と題して基調発題に立った。

齋藤氏はまず、世界の食事について触れ、世界人口の約8割は五大宗教のいずれかを信仰していると考えられ、戒律で認められた食事が推奨されている。例えば、仏教では精進料理、イスラム教ではハラール料理、ユダヤ教ではコーシャ料理だと述べた。

その中で、人口14億人のインド国民は、宗教上の菜食主義者が多く、現在の世界の食料危機を回避・救済している点は重要であると指摘、将来は、先進諸国での肉食増加によるたんぱく質危機が予想され、植物

性たんぱく質や昆虫食に代替食としての期待が寄せられていると述べた。

また、国連食糧農業機関「FAO」の資料などを引用しながら食糧危機について言及。世界の飢餓人口は7億人に達するが、その食料危機の原因には、食料分配の不平等、食品ロス、気候変動、肉食増加、人口増などが挙げられる。世界では、飢餓と肥満が同時に起こっている国も多く、経済的な不均衡は拡大していると指摘した。2050年には、地球人口は100億に近づき、食料生産が追いつかなくなることが予想されるが、食品ロスを半減させることで1・5



基調発題に立った齋藤忠夫所員

憶人の人を救うことが可能とされる。将来の小麦やコメの消費の主役は、中国からインドに移る可能性が確実視されており、未来の飢餓を救う可能性はインドとアフリカの改善にかかっていると考えられると述べた。さらに、日本の食糧安全保障についても言及し、日本の食料の安定確保も極めて重要であり、先進諸国の中でも食料自給率は38%と極めて低く、海外からの輸入に頼り何とか食生活を維持している状況。自国の食料生産と食糧の安全保障を真剣に考える時期に来ているのではないかと警鐘を鳴らした。

次に、パネルディスカッションが行われ、コーディネーターを平和研究所の松井ケテイ所員（清泉女子大学教授）、パネリストを平和研究所の竹村牧男所長（東洋大学名誉教授）、国連食糧農業機関「FAO」駐日事務所所長の日比絵里子氏、平和研究所の森伸生所員（拓殖大学イスラム研究所所長）が務めた。

この中で、竹村所長は、食品ロスの問題に真摯に取り組む必要があるとした上で、宗教と食の問題について言及した。食事の「宗教的意義」として神仏（いのちそのもの）の賜物・恵みであることへの感謝をあげ、



パネルディスカッションの登壇者たち

食事の目的の第一義は、自己の人生の目的を果たすために身心の健康の維持・増進をはかることにあることを自覚することが大切であり、いたずらに豪華な美食を求めず、味覚よりも心身の向上につながる食事を心がけるべきであると述べた。仏教の立場から「少欲知足」に触れ、いたずらな大食は煩惱を募らせるのみであり人生の真の目的への視点を見失うことにさえる。少欲知足の教えに基づく食事のあり方への考察の深化が重要であり、それは貪りから離れることが焦点となると述べた。宗教界として、宗教の立場に基づく「食の哲学」を自覚し

直し、普遍的なものとした上で社会に訴えていくことが重要であると語った。

日比氏は、飢餓の状況に言及、世界の人口のうち11人に1人にあたる約7億人余りが生存に必要なカロリーに届いていない、いわゆる飢餓人口だと指摘した。飢餓は①紛争、②気候変動、③景気・経済の3つが最大の原因とされており、飢餓の問題は、農林水産や食料分野の問題として解決できる問題ではなく、貧困や社会的不平等の問題がなくならない限り問題を解決することはできないと述べた。そこでFAOは、生産、流通、消費、廃棄に加え、その周辺に位置する社会的問題としての不平等、環境、生物多様性、水資源などを含めた「農業食料システム」としてとらえ取り組んでいると説明した。

森所員は、クルアーンでは、人間が地球上の資源や自然を適切に利用しつつ、これを守る役割を担っているとされており（2章30節）、神の代理人としての人間は、食物を含むすべての恩恵を、神の意図に従って利用する義務を負っていると述べた。さらにこの役割は、単なる消費者ではなく、環境と社会において倫理的で責任ある行動をとる管理者としての姿勢を求めるものと説



会場の様子

明した。特に、食べ物は神が与えた恵みとされ、これを感謝をもって摂取し、浪費せず、大切に扱うことが求められていると語った。食物は、神（アッラー）から人類に与えられた恩恵であり、その消費を通じて神への感謝と従順を示すことになる。イスラームでは、食事は単なる身体的な栄養補給の手段ではなく、アッラーへの信仰を深め、人との絆を強めるための大切な行為とされていると語った。

最後に、総合司会を務めた平和研究所の金子昭所員（天理大学おやさと研究所教授）が閉会あいさつを述べた。

「このまち」に関する基調講演

『世界を見つめ、地域で共に生きるーローカルから始まるグローバルアクションー』をテーマに、WCRP日本委員会女性部会による「いのちに関する学習会」が3月8日、清泉女子大学（東京都内）にて開催され、32人が参加した。当日は江戸川区の多文化共生の実践を通して、地域から始める共生社会づくりについて学ぶ機会となった。

松井ケティ女性部会部長（清泉女子大学教授）の開会あいさつのもと、ジョージ・ギッシュ氏（青山学院大学名誉教授／江戸川総合人生大学名誉学科長）が『日本社会における多文化理解と外国人との共生』と題して基調講演に立った。ギッシュ名誉教授は、江戸川区のまちづくりの変遷を紹介しつつ、物理的なインフラ整備に加えて「人と人とのつながり」、すなわちソフトのインフラ

の重要性を強調した。

中でも印象的であったのは、「国際」ではなく「人際」という言葉の提起である。国籍や文化の枠を超え、一人ひとりと向き合い、共に地域を築いていくという姿勢こそが、多文化共生の基盤であると語られた。また、江戸川総合人生大学でのフィールドワークを通じて、学生たちが実際に外国人住民と関わりながら信頼関係を築いてきたことや、「世界の中心は自分の中にある」という内省的な視点も示された。

講演の締めくくりでは、「〜のために (For you)」ではなく「〜と共に (With you)」という協働の姿勢こそが、これからの社会に求められる価値観であると力強く語られた。



基調講演に立つジョージ・ギッシュ名誉教授

は、江戸川区のまちづくりの変遷を紹介しつつ、物理的なインフラ整備に加えて「人と人とのつながり」、すなわちソフトのインフラ



パネルディスカッションの登壇者たち

次にパネルディスカッションが行われ、コーディネーターを和田恵久巳女性部会委員（立正佼成会総務部長）、パネリストを門田

信雄氏（江戸川総合人生大学同窓会ボランティア連絡会世話人会代表）、松浦松子氏（江戸川総合人生大学同窓会会長）、ジャグモハン・チャンドラニ氏（江戸川区インド人コミュニティ会長）、ギッシュ名誉教授（基調講演者）が務め、それぞれの現場での多文化共生の実践を紹介した。

門田氏は、日本語ボランティア活動を通じて、言語支援のみならず、外国人が地域で安心して暮らすための環境整備や行政との連携、継続的な支援の体制づくりの重要性を訴えた。松浦氏は、街づくりではなく、信頼関係に基づく「コミュニティづくり」の意義を強調し、地域住民一人ひとりの行動が社会を変える力になることを示した。チャンドラニ氏は、住居、教育、食文化といった外国人が直面する課題を紹介しながら、地域社会と共に生きる姿勢の大切さを語った。

最後に河田尚子女性部会副部長（アル・アマーナ代表）が閉会のあいさつを述べた。今回の学習会を通じて、文化や宗教の違いを超えて共に生きる社会を実現するためには、地域に暮らす一人ひとりの意識と行動が不可欠であることが改めて確認された。

ミャンマーにおける地雷被害急増に 対する緊急声明を採択

3月14日、WCRP日本委員会は、京都市の北野天満宮で開催された第51回理事会において、「ミャンマーにおける地雷被害急増に対する緊急声明」を採択した。（声明全文：<https://www.wcrp.or.jp/>）

この声明の採択は、2月に緊急来日したWCRP国際委員会共同会長であり、ミャンマー・ヤンゴン大司教のチャールズ・ポー



緊急声明文

枢機卿とともに開催した「ミャンマーの平和構築に向けた諸宗教と国連／諸団体による円卓会議」における発言を受けたものである。

声明では、近年ミャンマーにおける地雷被害が急増している現状を深く憂慮し、国際人道法で違法とされる地雷の使用に対し強く反対を表明した。また、関係国や関係者のみならず、国際社会全体に対し、ミャンマーでの地雷撤去や犠牲者の生活支援のための行動を呼び掛けている。

報道の減少とともに薄れがちな関心中、過酷な環境下に置かれているミャンマーの人々に想いを寄せ、連帯の意思を新たにすることが今こそ求められている。私たちは、現地で平和構築に尽力する団体・個人とともに、友人であるミャンマー委員会との連帯を強く誓うものである。

「国際女性デー2025声明」に賛同

国連が定めた3月8日の「国際女性デー」に向けて、ソロプチミスト・インターナショナルおよび国連諮問関係NGO会議（CONGO）が中心となって作成した「国際女

性デー2025声明」に対し、WCRP日本委員会は第51回理事会で賛同することを決議した。この声明は、女性の権利とエンパワーメントの記念碑的会議として知られる1995年の国連「第4回世界女性会議（北京会議）」と、北京会議で採択された「北京宣言および行動綱領」から今年で30周年を迎えるにあたり、すべての女性と少女の権利を保障し、促進することを求める声明となっている。とりわけ、近年のデジタル社会において、人口知能（AI）を含むテクノロジーが悪用されて、ソーシャルメディアなどのオンラインプラットフォーム上で女性や少女に対する深刻なリスクをもたらしていることに警鐘をならすとともに、AIおよびその他のテクノロジーを利用したジェンダーに基づく暴力からすべての女性と少女を保護するための取り組みを講じることなど、ジェンダーとAIをめぐる課題への対処を求める内容となっている。4月7日時点で、NGOや女性支援団体、宗教団体、諸宗教組織など125の団体が本声明に賛同している。詳細はWCRP日本委員会ウェブサイトを参照。

新役員紹介

新たに就任したWCRP日本委員会の新役員を紹介する。

理事
細野舜海（天台宗宗務総長）



細野理事

昭和30年生まれ。昭和45年10月に得度受戒。昭和57年3月、大正大学大学院修士課程天台学卒業。平成12年10月に南総教区観明寺住職拝命し、平成18年4月から令和6年9月まで天台宗宗議会議員を5期務める。令和4年5月から令和6年2月まで天台宗宗議会議長。令和6年11月から天台宗宗務総長（現職）。その他、宗内役職を歴任。

平和首長会議へ支援金を贈呈

3月25日、WCRP日本委員会の篠原祥哲事務局長は、広島市の公益財団法人広島平和文化センターを訪れ、森川伸江専務理事と面会、WCRP日本委員会を代表して平和首長会議へ支援金を贈呈した。

面会には、永井孝司平和首長会議運営課長、原田万夢平和首長会議運営課主事も同席。贈呈後、平和への取り組みに関する意

見交換が行われた。篠原事務局長からは、「東京平和円卓会議」にふれ、これまで紛争地域の宗教者を招き、対話と相互理解の促進に努めてきたことや一昨年のG7サミットに先立ち開催された宗教者の集い、AI（人工知能）の倫理に関する国際会議への取り組みについて説明がなされた。加えて、近年宗教に対する誤解や偏見が根強くなっている状況の中で、WCRP日本委員会として宗教が社会や世界の安定化に貢献している肯定的な面についても発信していく必要性について言及した。

森川専務理事からは、「平和首長会議」では「平和文化の振興」をもとに、核兵器のない世界の実現、安全で活力のある都市づくり、さらには恒久平和の実現を目指していることが説明されました。



森川専務理事（左）

WCRP日本委員会と広島平和文化センターは、これからも平和への取り組みを継続し、世界へと発信していくことを確認した。

WCRP会報 次の夏号は7月発行

本年度より会報は、季刊誌となりました。次の夏号は、7月発行の予定です。

WCRPの活動

《4月》

- 3日 バグウォッシュ第3回公開講座（オンライン）
- 4日 災害対応タスクフォース第1回会合（オンライン用）
- 9日 バグウォッシュ第4回公開講座（オンライン）
- 12日 気候危機タスクフォース「いのちの森プロジェクト」タケノコ掘りDE森づくり（埼玉・所沢）
- 14日 人身売買禁止タスクフォース第1回会合（オンライン）
- 19日 青年部会第1回幹事会（和歌山・ホテル紀伊田辺）
- 24日 平和研究所第1回所員会議（オンライン）
- 26～27日 和解の教育タスクフォース第3回ファシリテーター養成セミナー／第1回会合（東京・オリピックセンター）
- 28～30日 ACRP執行委員会（シンガポール）

表紙写真

上段…平和大学講座に会場参加のみなさま下段…登壇者

掲載内容の無断転載を禁ず。

